

お口の中で気になる症状は ありませんか？

骨修飾薬の副作用で、あごの骨に炎症が生じ、あごの骨壊死が起こることがあります。

下のセルフチェック表で、1つでもあてはまる項目があれば、骨修飾薬の使用前に歯科を受診しましょう。

骨修飾薬使用前 セルフチェック表



- 1年以内に歯科を受診していない
- 歯肉が腫れたり、膿んだりすることがある
- 放置しているむし歯がある
- 詰め物が外れたまま治療していない歯がある
- 歯周病と言われたことがある
- グラグラしている歯がある
- 抜いた方がよいと言われた歯がある
- 義歯が合っていない



骨修飾薬の治療を はじめる方へ



私は、 年 月 日から

ビスホスホネート (薬の名前：)

デノスマブ (薬の名前：)

を開始しています。

骨修飾薬の開始前に裏表紙の
「骨修飾薬使用前セルフチェック」を活用ください。

骨修飾薬の治療を受けている患者さんは、
この冊子を**歯科医師に提示**してください。

→ 骨修飾薬（こつしゅうしょくやく）とは

骨粗しょう症、がんの骨転移、骨病変の治療目的に使用されます。主に以下の2種類の薬剤があります。

1. ビスホスホネート製剤：骨の吸収を行う破骨細胞の活性を直接抑制し、骨病変の進行を抑えます。痛みや高カルシウム血症の治療にも使用されます。
2. デノスマブ：RANKLというタンパク質を阻害することで、骨の吸収を抑制し、骨折のリスクを減らします。

→ あごの骨壊死（顎骨壊死）とは

骨修飾薬の治療中にあごの骨壊死が起こることがあります。口の中の細菌により顎の骨に感染することが原因です。あごの骨に炎症が起き、骨が露出し腐ってしまうことがあります。進行すると食事などの生活に支障が出ます。抗がん剤、副腎皮質ステロイド、免疫抑制薬（メトトレキサートなど）による治療を受けているとリスクが高くなります。



あごの骨壊死を予防するために

お口の中を清潔に保つこと、気になる症状がでたら早めに歯科を受診することが大切です。下記の症状があてはまる時はがん治療の主治医、歯科医師にお伝えください。
また、症状がなくても定期的に歯科でのチェックを受けましょう。

- 歯肉やあごの腫れや痛みが続く
- 口の中に膿が出る（苦い味を感じる、臭いがする）
- 歯ぐきから白または灰色の硬いものが見える
- 下あごや唇がしびれる
- 歯が自然に脱落してしまった
- 歯を抜いたがなかなか傷が治らない
- 口が開かない



歯科を受診するとき大切なこと

骨修飾薬を使用していることを必ず伝えましょう。骨修飾薬の開始後の抜歯やインプラント（人工歯根）手術は骨壊死の引き金となる可能性があるため、できるだけ避ける必要があります。治療が必要な場合は、がん治療の主治医および歯科医師とよく相談しましょう

